

第 43 回日本小児感染症学会

第 43 回学術集会レポート 表彰式

研究教育委員会委員長 森内浩幸

賞の内容について説明させていただきます。

Young Investigator Award (YIA) は、学術集会に筆頭演者として抄録を提出されたまだ受賞経験のない 40 歳未満 (来年 4 月の時点で) の会員のなかから、毎年 3 名選んでおります。平成 20 年度までは、優秀演題賞として年齢制限や受賞経験の有無を問わずに選出していたものです。受賞者へは副賞として、来年度の Asian Society for Pediatric Infectious Diseases (ASPID) または Asian Society for Pediatric Research (ASPR) に参加し研究内容を発表するための補助金 (10 万円) を贈呈いたします。また、1 位選出の受賞者は、日本小児科学会が Pediatric Academic Societies (PAS) 発表者として派遣する活動に関して、本学会から候補者として推薦しています。

研究プロジェクト助成金は、小児感染症・免疫にかかわる研究を奨励し援助することを目的に平成 18 年度から開始しました。当初は研究奨励賞という名称でしたが、昨年より名称変更しております。特に研究費の捻出が困難な一般病院や開業医の先生方の応募を強く歓迎し募集しているもので、受賞者は 40 万円の研究助成金が授与されます。義務として奨励金使途およびそれによる研究成果の概要を学会誌において報告し、また研究成果は本学会学術集会においても発表していただきます。



授賞式の模様です。YIA 受賞者 3 名と研究プロジェクト助成金受賞者 2 名が勢揃いしました。本学会の将来を背負って立つ頼もしい面々です。

(右から) 西尾壽乗先生、渡部真裕先生、河野好彦先生、笠井正志先生、横山忠史先生



西尾壽乗先生は「新規自然免疫リガンド誘発冠動脈炎モデルの検討」でYIAを受賞しました。この研究は川崎病の病態解明に迫る快挙です。今回最高得点での受賞であり、また日本小児科学会の推薦を受けて、2012年春のPAS年次集会で発表することが決まっております。おめでとうございます！



渡部真裕先生は「膜融合蛋白 (F 蛋白) を標的とした新規ペプチドによる亜急性硬化性全脳炎の新たな治療戦略」でYIAを受賞しました。大震災・原発事故で揺れる福島から、ハイレベルの研究が発表されることは心強いことです。ぜひ世界に発信される研究として発展してほしいものです。



河野好彦先生は「血漿中のEBウイルスがコードするmiRNA 定量によるEBウイルス関連疾患診断への応用」でYIAを受賞しました。これもまたハイテク医学研究の臨床現場へのトランスレーションとして期待されるものです。



笠井正志先生は「本邦小児臨床現場における血液培養採取状況の把握と複数セット採取の有用性の検討」で、研究プロジェクト助成金を獲得されました。感染症診療の基本でありながら、小児では採血の困難さもあって軽視されがちな血液培養について、国内での知見が拡がり臨床現場にフィードバックされることを願っています。



横山忠史先生は「ウイルス性胃腸炎患者の腎合併症とその発症メカニズムの解明」で、研究プロジェクト助成金を獲得されました。Commonな感染症の比較的まれな合併症のメカニズムの解明は、研究能力のある人が臨床現場で頑張って橋渡しすることで初めて可能になるかもしれません。期待大です。

2012年11月に福岡県で開催される学術集会でも、きっとこれまで以上に素晴らしい演題が発表されることでしょう。若手会員の活躍が本学会の発展の、そして子どもたちの健やかな未来のためのパワーとなります。またワクワクドキドキの若手会員を次回も皆さんにご紹介できることと思います。

本年度の研究プロジェクト助成金の公募も開始しました！ 1件40万円を1~2件採択します。大きな額ではないかもしれませんが、大きな成果が生まれるきっかけにしてください。